

平成 2 6 年度

府中市地域包括支援センター  
業務チェック結果報告

## 地域包括支援センター泉苑

### 1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	武蔵台・北山町・西原町・東芝町・日鋼町・美好町1,2丁目		
人口	24,591人	高齢者人口	5,680人
自治会数	57団体	老人クラブ数	9団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	4	2	1	1	0	6	0	1	0	1	1	0	1	1

### 2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

町別高齢化率で表現すると、府中市第1位第2位の高齢化率30%超の町と、府中市で一番高齢化率の低い町が同居している。街ごとのニーズの違いが明確なので地域診断(アセスメント)の考えがとても重要と感じている。

武蔵台：西国分寺駅に近い住宅街。都営住宅も多い。特別養護老人ホーム信愛泉苑もある。武蔵台3丁目は「はけうえ」とも呼ばれ中央線西国分寺駅に近く府中市内よりも国分寺・国立・立川へのアクセスが良いため、府中市としての活動を浸透させるための工夫が必要である。

北山町：引揚者住宅から始まった都営住宅が密集している府中で一番高齢化率の高い地区。最近道路拡張計画が始まり転出者が増加している。しかしながら住民の互助の意識は高い。一人暮らし高齢者等支援事業で民生委員、自治会有志を中心にして毎週土曜日の活動を行っている。

西原町：約40年前から造成された戸建て住宅群。北山町同様に道路拡張計画によって転出者増加している。住民自治として見守りネットワーク活動を20年余り行っている先駆的の地区。

東芝町：10年前に新築された巨大な高層マンション1棟。来年2棟目が完成予定。マンション内でシニアクラブ活動などが盛んである。

日鋼町：地区48年余り経過した公団の分譲住宅。すべての建物がエレベーターの無い4、5階建てで高齢化も進んでいる。転出者も多い。最近建て替え計画が住民投票で否決されたばかり。意識の高い住民の危機意識が高まっている。熱中症対策事業で全戸訪問を実施している。

美好町1,2丁目：分倍河原駅に近い住宅街。都営住宅も多く後期高齢者の要介護認定率30%超と泉苑担当エリアの中では飛び抜けて高い地区。独居高齢者数が多いことが一因と考えられる。戸建ての住民と都営住宅そして甲州街道の南北に分かれているため、住民の運動を組織化する工夫が必要である。

3 職員内訳(資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入)(平成26年12月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員					
	職員	職員	職員	職員	職員	職員		0.8	0.45	0.175	0.175		
資格	社会福祉士												
	保健師・看護師												
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー	主	主										
	介護福祉士												
	その他	福祉士	精神保健										

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

- ・担当エリアを、地域毎に特徴及び課題の整理把握をしている。また、それに応じた地域支援の展開に向けた動きをしている。
- ・高齢者地域支援連絡会を地域分けをして開催することにより、地域のニーズを抽出しやすく、還元しやすいよう工夫をしている。
- ・認知症カフェを参加者及びボランティア主体で定期的開催している。両者の参加意欲が高く、自主的な開催となるよう関わっている。
- ・高齢者の福祉サービスや権利擁護事業などの周知活動を積極的に幅広く行っている。昨年は参加していなかった自治会の定例会・総会等にも参加するようになってきている。
- ・介護予防事業を地域づくりに取り入れる等、多角的な視点を持ちながら包括支援センター業務に取り組むことができている。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

- ・業務に関し、包括独自の取組もあるため多岐にわたり多忙になっている。優先順位を検討し今後も円滑な業務の遂行を行ってほしい。
- ・包括として、地域への参加活動を積極的に行っているため、今後も継続した活動が望まれる。

総合コメント

職員同士の情報(ケース)の共有化がなされており、「全く知らない」ことがないように毎日、支援センターシステム以外の独自システムに入力し、翌日の朝に全職員が全ケースに目を通すことにしている。情報共有を限られた時間で有効に活用し、行われている点が評価できる。

また、地域特性の特徴及び課題の整理把握が適切に行われている。そして、適切に行われる環境作り等の工夫もみられる。積極的に地域に働きかけ、地域ニーズを抽出している。

今後は、これらの特徴及びニーズを地域に合った形で特化させて事業を行っていくビジョンを掲げている。次年度以降もこの地域特性に沿ったビジョンを少しずつ具体化していくことを期待している。

地域包括支援センターよつや苑

1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	四谷・住吉町・分梅町・美好町3丁目		
人口	35,348人	高齢者人口	6,971人
自治会数	28団体	老人クラブ数	10団体

	支援 居宅 介護	訪問 介護	訪問 入浴 介護	訪問 看護	訪問 リハ ビリ	通所 介護	通所 リハ ビリ	生活 介護	短期 入所	療養 介護	短期 入所	型通所 介護	認知 症対応	福祉 施設	介護 老人 保健 施設	介護 老人 用具 販売	特定 福祉	用具 貸与	特定 福祉
介護保険 事業者数 (延べ件数)	8	7	0	2	0	6	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

四谷：京王線中河原駅に近く、1丁目には新旧の住宅、2丁目には古くからの農家も残り、戸建の借家やアパートもあり、昔ながらの地域の関係が残っている。3丁目は、40年ほど前に金融機関や警察、企業が行った宅地整備の分譲住宅が多く地域の中でも特に高齢化率が高い。4～6丁目は、古くからの農家や分新旧譲住宅、市営住宅が点在している。高齢化率は19.9%である。

住吉町：中河原駅を中心にスーパーや商店が多く連なる中心部と、昔から田畑を所有する地主の家が並ぶ地域、その田畑をアパートやマンションとして再活用した地域、昭和30～40年代に造られた戸建、最近建てられた大型マンションと築40～50年の都営住宅群とが隣接する地域など、街ごとの特色がはっきり分かれていることが特徴的である。医療は、駅を中心に開業医が多く、恵仁会病院もあることから連携をとって救急時にも敏速な対応がなされている。高齢化率は20.4%。

分梅町：高齢化率は街全体で、20.5%。都営住宅・市営住宅には高齢者も多いが、その一方で労働世帯やその子どもの数も多い。戸建住宅には古くからの住民が多く、戸建住宅とアパートでの高齢者数が多いことが特徴的である。分梅町1丁目には介護予防推進センターがあり、近隣の高齢者が各種教室に参加したり談話室を活用し、つながりの場となっている。この地域には、自治会の連合会があり青年会とも連携し、神社でのお祭りや新年の餅つきなどのイベントを開催している。分倍河原駅近隣には商業施設もあり、生活するには便利なエリアで、活動的な地域である。

美好町3丁目：旧甲州街道を挟み農家を中心に発展した北西部と、戦後企業の進出により宅地化が進んだ南西部にそれぞれの自治会があり、それに派生して老人会がつくられた経緯がある。昭和30年代につくられた戸建に住む高齢者が多い。一方、アパートやマンションも小規模だが多く建ち、若い世代が多いという特徴もある(高齢化率15.5%と担当エリア内で一番低い)。3丁目には、歯科医や耳鼻科はあるが、総合病院や内科医がない。旧甲州街道沿いにスーパーはあるが、南西部には店舗や喫茶店など人の集まる場所がない。

3 職員内訳（資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入）

（平成26年12月1日現在）

		常 勤 職 員							非 常 勤 職 員				
		職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員					
資格	社会福祉士												
	保健師・看護師												
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー	主	主										
	介護福祉士												
	その他(資格があれば 記入)	社 士	精 神 保 健 福				門 相 談 員	福 祉 用 具 専					

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

・センター長と介護予防コーディネーターが地域支援連絡会など地域活動に参加することが増えてきており、自治会などから声をかけられるようになるなど、地域との関係性が着実に築かれている。

・年2回（4月・10月）包括職員全員が個人の目標をたて、センター長との面談をするなかで、センター長からも担うべき役割について話し合うなど、共通理解のための努力がみられる。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

・ケアマネ支援のため、ケアマネ同志をつなぐための事例検討や情報交換の場を今後さらに充実させ、インフォーマルサービスの活用にも生かしていただきたい。

・ささえ隊養成講座について、今後学校などでの開催についても検討していただきたい。

・職員配置について、不足の状況とにならないよう対応をお願いしたい。

総合コメント

朝礼、夕礼のほか月1回のチーム会議は半日かけて「認知症」「虐待」「退院支援」などの項目ごとに支援についての振り返りを行うなど、相談のその後を全員で共有していることで、一人ひとりの次の目標や役割を明確にしたうえで進んでいることは評価できる。

地域との連携については広がっている印象があるので、今後とも継続していただきたい。

介護予防の取り組みについても予防プランからその方の方向性を考えて、講座に誘ってみるなど、今後の制度改正を視野に入れた取り組みをしている。

成年後見制度の相談が増えてきており、その普及啓発について今後さらに地域に発信していくことを期待したい。

地域包括支援センターあさひ苑

1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	多磨町・朝日町・紅葉丘・白糸台1～3丁目・若松町1丁目		
人口	31,426人	高齢者人口	5,790人
自治会数	16団体	老人クラブ数	7団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	4	5	0	1	0	3	0	1	0	1	1	0	1	1

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

朝日町：戸建て住宅が多く長年の居住者は、民生委員が大多数を把握。大規模なオートロックマンションに住む高齢者はあまり把握が進んでいないのが課題。新興住宅地は昨年まで自治会への加入が進まなかったが、自治会役員が加入へのアプローチを地道に行い、少しずつ効果が表れている。老人クラブは会長の後継者がおらず継続を断念し解散となっている。

多磨町：独自の盛んで、まとまりがある。老人クラブの活動も活発。地域の寺を会場としたサロンも憩いの場となっている。一方、町会や老人クラブへの未加入者が増えてきており課題となっている。買物については、多磨駅周辺に小さい商店があるが、スーパーがない環境に加え、地域密着型の大きな八百屋も今年閉店してしまったことで不便さが更に増している。

紅葉丘：丁毎の自治会、都営住宅の自治会がある。紅葉丘3丁目町会は、民生委員を中心に、自治会で交流サロンを月2回公会堂で開催。資源回収や運動会の開催、町会だよりの発行、敬老会の開催等、地域に還元できる仕組み作りをしている。1、2丁目もサロン等交流の場の開拓の必要性の議論がされており、今後、社会福祉協議会、包括支援センターの後方支援も含めて連携が必要。老人クラブは新規の入会者の伸び悩みがあるが、自治会、老人クラブ、民生委員がしっかりと連携した取り組みが継続されている。

白糸台：丁毎の自治会が継続的に活動している。古くからの住民と比較的新しい住民がおり、高齢化率は低い、予防的な活動が特に必要な地域である。白糸台地域は包括支援センターしみずがおかと二分している関係上、平成24年度より、高齢者地域支援連絡会を協同開催し、協力して取り組んでいる。

若松町1丁目：高齢化率は低い、40歳から74歳までの人口比が多い。マンションが多く、近隣との交流が希薄で、実態把握が難しいと自治会からの声もあるため、今後孤立の問題を抱えた世帯の相談ケースが増えていく可能性がある。特に若い世代に対する介護予防啓発等や多世代に渡る見守りネットワークの周知などを強化していく必要がある。

3 職員内訳(資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入)(平成26年12月1日現在)

		常 勤 職 員						非 常 勤 職 員		
		職員	職員	職員	職員	職員	職員	0.4	0.9	0.3
資格	社会福祉士									
	保健師・看護師									
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー	主					主			
	介護福祉士									
	その他									

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

・包括と地域の課題を確認するための具体的な取組がされている。地域別の連絡会を開催、地域行事への参加等、顔の見える関係性の構築に努め、より効果的に地域と課題を確認しあい、「課題の共有」が図れている。

・介護予防の普及啓発として、地域の身近な施設を活用し、より多くの人に知ってもらう機会を設けた結果、地域別では横の繋がりができている。また、予防業務を普及啓発するには、地域の人口や動態から若い世代に対する取組が必要である。その為、家族の情報を多く把握している介護支援専門員に対し、主任介護支援専門員が会議を開催し普及啓発に努めている。

改善が必要な点 取り組むが必要な点

・全体的にリピーターに対する継続的な対応は行っているが、新規の方の予防啓発や、2次予防対象者に対する積極的なアプローチを継続的に取り組む必要がある。また、関わりの薄い地域や自治会等、地域の特色を加味した会場やテーマの設定等、より一層の期待をしたい。

総合コメント

包括支援センターとして、担当の課題の共有化が図れていることにより、具体的かつ効率的な業務が遂行されている。また、積極的に地域に出向き行事などに参加することにより、顔の見える関係性が構築され地域の特色や課題が表面化されつつあり、継続的な取組に期待したい。一方、関わりの薄い地域や、新興住宅地等も数多くあることから、新たな開拓に向けてのきっかけ作りをどうしていくか、引き続き地域と一緒に考えていってほしい。

職員一人ひとりの知識や意識は高く連携も図れていることから、引き続き地域視点での業務遂行に期待したい。

また、地域や個人から制度や支援に対する理解や協力が得られにくいこともあるが、引き続き関係機関と協力して対応をしてほしい。

## 地域包括支援センター安立園

### 1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	晴見町・幸町・天神町・府中町・寿町		
人口	27,724人	高齢者人口	5,681人
自治会数	72団体	老人クラブ数	11団体

	支援 居宅介護	訪問介護	訪問入浴 介護	訪問看護	訪問リハ ハビリ	通所介護	通所リハ ハビリ	生活介護	短期入所 療養介護	短期入所 型通所介護	認知症対応 型通所介護	福祉施設 介護老人 保健施設	介護老人 用具販売	特定福祉 用具貸与	特定福祉
介護保険 事業者数 (延べ件数)	12	12	1	3	0	2	0	1	0	2	1	0	1	1	

### 2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

晴見町：築年数の高い都営住宅や公団の集合住宅が並んでおり、高齢化率 26%と高い地域。府中刑務所周辺は戸建てが多く並んでいるが、空き家も目立ってきている。地域活動は比較的盛んで、自治会によって防災訓練や夜間の見回り活動、ジャズコンサート等様々な活動を実施し、地域で交流を深めているところが多い。

天神町：マンションが点在しており現役世代も増えているが、戸建てで長く生活している高齢者が比較的多く、また空き家が多い地域でもある。市の中心部から若干離れておりスーパーも身近にないため、日常生活に支障が出ている高齢者からの相談も増えている。大きな自治会がいくつかあり、フェスティバルや防災・サロン活動など地域活動が盛んなところもあるが、実質活動をしていない小さな自治会も多く点在している。新町コミュニティ圏域になるため、新町文化センターを利用する方も多い。

幸町：農工大と府中公園に挟まれており緑豊かな地域。閑静な戸建てと都営の集合住宅が混在している。高齢者のサロンのような八百屋や、多世代交流が図れる手作り喫茶を自宅に作った方など、地域活動に熱心な方々がいる。また、今年度は複数の自治会合同で感謝祭を開催するなど地域づくりの気運が高まりつつある。

府中町：市の中心部に近く、高齢化率が約 15%と現役世代が多い地域。中央文化センターがあり様々な催しが行われている。オートロックのマンションも増えているがエレベーターがない建物も点在しており、相談が徐々に増えている。予防事業に積極的な自治会や老人会があり、地域づくりの一環として包括も積極的に関わっている。

寿町：新築のマンションも多いが、お祭り等を軸にした地縁のつながりが比較的強い地域。自治会や老人会がしっかり活動しており、敬老式典を開催したり、近くの障害者施設と盆踊りなどの地域活動を一緒に行うなど、住民だけでなく様々な機関も参加し地域活動を盛り上げている。

3 職員内訳(資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入)(平成26年12月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員			0.8	1		
資格	社会福祉士												
	保健師・看護師												
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー					主							
	介護福祉士												
	その他(資格があれば記入)		事 社会福祉士			歯 科衛生士							

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

- ・今年度、長年その役割を担ってきた介護予防コーディネーターと地域ネットワーク担当を戦略的に交代し協働することで、介護予防事業の推進と同時に、包括と地域のネットワークにも広がりを見せている。また、地域を幅広い視点で見ることができ、地域の強みや課題も把握することができた。
- ・地域ネットワーク活動から、自主グループを立ち上げ、継続・拡大することができた。
- ・相談業務については、3職種の強みを生かした連携ができています。また、疑問に思ったことを相談することができる雰囲気作りもできており、より良い支援につながっている。
- ・介護支援専門員の支援について、包括として事例検討会を開催し、包括・介護支援専門員双方のスキルアップを図ることができた。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

- ・今後も積極的に地域住民との関わりを持ち、包括支援センターや業務内容についての周知活動を行っていく必要がある。
- ・高齢者地域支援連絡会で明らかになった課題を、住民自身で解決できるようにするための取り組みが必要である。
- ・認知症サポーターささえ隊の活用についての取り組みが必要である。
- ・個人情報の管理について、職員一人一人の意識を高めていく必要がある。

総合コメント

介護予防事業から地域活動に広がりが見えてきており、そこに地域ネットワーク担当や相談3職種も入り連携することで、包括の周知だけではなく、地域づくりについても発展的に取り組むことができています。今後更に充実させ、住民の力を生かせる取り組みに期待すると共に、把握した地域の課題の解決に取り組むための工夫と住民との協働に期待しています。

インフォーマルな活動についても広がりが見られ、社会資源についての情報を整理し、地域や介護支援専門員等と共に把握し、活用できるような支援を期待しています。

個別ケースの支援方針や進行管理について、包括全体で共有し、切れ目のない支援ができています。3職種だけでなく、包括全体として相談し合える環境が整っており、今後も継続していただきたい。

地域包括支援センターしみずがおか

1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	八幡町、押立町、清水が丘、白糸台(4・5・6丁目)		
人口	28,426人	高齢者人口	6,064人
自治会数	32団体	老人クラブ数	11団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	10	6	0	1	0	3	1	1	1	1	1	1	0	0

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

押立町：市の東南、調布市との市境に位置し、駅から遠いところではバス便を利用し調布へ出て買物や通院する方も多い。介護保険サービスも調布の事業所を利用する方も多い。築30年以上の団地や戸建て住宅があり、高齢者世帯、単身者が増えている。団地やマンションの集会室を活用したサロン活動が始まっており、高齢化について住民意識が高い。押立体育館、押立文化センター(改修中)など、市の施設も活用されている。

清水が丘：東西は東府中駅から多磨霊園駅まで、北側は品川街道、南側はしみず下通りまでの地域。1～3丁目まで、各丁目ごとに自治会と老人会、公会堂がある。2丁目では、自宅を開放した認知症のサロン活動を始める動きがある。高齢の単身世帯、高齢者のみ世帯が多い。

白糸台4～6丁目：武蔵野台駅北側から調布市境までの地域。自治会の構成があさひ苑エリアとしみずがおかエリアにまたがるため、地域支援連絡会はあさひ苑と合同開催している。自治会同士のつながりが強く、自治会活動が活発。

八幡町：府中駅から東府中駅間の南側、競馬場が近いこと、開催日は来場者で交通渋滞あり。旧甲州街道沿いはオートロックのマンションが多く、見守りが難しい地域。利便性が高く、高齢の単身世帯が多い。日吉体育館、公会堂を活用した高齢者の活動が盛んである。

3 職員内訳（資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入）（平成26年12月1日現在）

		常 勤 職 員						非 常 勤 職 員			
		職員	職員	職員	職員	職員		0.9			
資 格	社会福祉士										
	保健師・看護師										
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー		主								
	介護福祉士										
	その他										

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

- ・昨年度の課題「地域の医療機関との連携」については、受診同行の機会に医師の包括に対する理解を深めることができ、改善したと評価できる。
- ・包括の周知については、可能な媒体をくまなく利用。各種講座の参加者同士の口コミで包括の利用にも結び付いており、地域に親しまれる包括としての周知に成功している。
- ・認知症サポーター養成講座の小・中学校開催を積極的に実施しており、圏域内の学校は1校を残しすべて終了している。
- ・介護支援専門員との連携については、電話だけでなく対面するようにして関係づくりに努めている。また、予防プランすべてに目を通して意見を付記し、疑問があった場合には作成者に確認し、予防から介護になっても相談・連絡しやすいようにしている。
- ・地域支援連絡会等を利用して地域のインフォーマルな資源の把握に努めている。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

- ・個人情報管理に関し、担当者及び保管場所の明確化を包括内で徹底してほしい。
- ・相談件数が増加し、相談対応が重なり折り返しとなる事があるため、職員配置について、業務量の変化に伴って各職員への負担が増加しないよう対応をお願いしたい。

総合コメント

インフォーマルな資源の把握や住民主体のサロンづくりを支援する手腕に長けている。この特性をさらに活かし、「地域で活躍したい」と思う認知症サポーター「ささえ隊」ネット登録者を希望する活動レベルに合った社会資源に繋がられるような仕組みづくりを期待したい。

権利擁護業務については、職員研修を実施したり、実務でも成年後見に繋がりがやすい支援方法をとったり、積極的に実施していると評価できる。

二次予防事業対象者の新規取り込みについては、チェックリストを活用し、郵送と電話の二形態で実施し、教室への参加者を増やしている点が評価できる。一次予防事業対象者の新規取り込みについては、「ほっとサロン」の体験会や、好評の企画を定例化する等の工夫をしており、全般的によく取り組んでいる。継続を希望する。

個人情報保護に関する意識・知識について、今後も研修等を行うとともに包括全体で共有してほしい。

地域包括支援センターかたまち

1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	片町・宮西町・宮町・本町・矢崎町・日吉町		
人口	21,657人	高齢者人口	3,991人
自治会数	46団体	老人クラブ数	14団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	6	9	1	1	0	2	1	0	1	0	0	1	2	1

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

旧甲州街道、府中街道に近いところは交通アクセスが良く、中央にある遊歩道は地域住民の散歩コースになっている。

中心部には商業施設とテナントビルが多く、多エリアと比較すると人口が少ない。全体の高齢化率は低いが、高齢者単身世帯が高いのが特徴。一戸建ての多い地域に比べ、大型の集合住宅がある地域の方が高齢化率は低い。

もともと地元に住んでいた住人同士の関わりが強く、転入してきた人たちの関係づくりが進まない地域がある反面、新しく建つマンションの規約に、自治会への加入をお願いする文言を入れて、その結果加入者を増やしている自治会もある。

徒歩圏内に、スーパーやコンビニ、クリニック、診療所、薬局があり便利で市役所へも行きやすい環境が、逆に地域との付き合いを希薄にしている要因とも考えられる。

3 職員内訳（資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入）（平成26年12月1日現在）

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員			
	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	0.8	0.3		
資格	社会福祉士										
	保健師・看護師										
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー	主									
	介護福祉士										
	その他(資格があれば 記入)	福祉士 精神保健						2 級	ヘルパー		

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

・昨年度の課題については、概ね改善されており、主体的に取り組んでいる。  
 ・情報誌「かわらばん」を切り口とした定期的な周知活動が地域で定着し、各種事業へのつながりや老人会ネットワークの維持にも安定した効果を発揮している。  
 ・定期的に管理職が職員に対して面接を行い、フォローアップすることで、良好な職場環境の維持に努めている。  
 ・相談業務にあたっては、2人体制で対応を基本とし、多角的な視点でのアプローチや情報共有の工夫等、丁寧な対応及び職員全員でのスキルアップを図る姿勢がうかがえる。  
 ・介護予防事業の実施、展開に関しては、長期的なビジョンを持ったの運営に配慮しており、地域づくりと良い形でリンクさせ、アプローチができています。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

・二次予防対象者のデータについては概ね活用はしているものの、データの分析結果に基づく開催地域におけるテーマの設定等、さらなる活用方法を期待したい。  
 ・活動が盛んではない、またつながりが薄い自治会等へ、長期的なビジョンを持ち、働きかけていただきたい。

総合コメント

3職種の専門性は活かしながらも、包括職員が一丸となって業務にあたっている。  
 かわらばんやおとしよりのふくしを持参しての戸別訪問や定期配布等、地道に培ってきた地域の“顔の見えるネットワークづくり”が、確実な効果を見せており、継続していただきたい。  
 また、高齢者地域支援連絡会や地域ケア会議等の開催について、前年度の気づきや課題点を踏まえて、工夫した展開、実施をしており、評価ができる。  
 地域性としては新しく建つ集合住宅が多く、また増え続けており、長期的な視点で考えると、地域の課題を住民主体で検討し、解決にむけて取り組んでいく力をどうつけていくか、引き続き市や住民と一緒に考えていってほしい。  
 多忙を極める業務であるが、職員のメンタルヘルスを含めた健康、良好な職場環境を維持し、かたまち包括ならではの取り組みを大切に、地域に根差した活躍に期待したい。

地域包括支援センターしんまち

1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	新町・栄町		
人口	14,960人	高齢者人口	3,988人
自治会数	84団体	老人クラブ数	8団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	2	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

新町・栄町は市内の北に位置し、小金井市・国分寺市と隣接している。東西に横長のエリアであり、公共交通機関は南北のバスはあるが、東西の移動には不便を感じる地域である。当包括支援センターは東に位置するため、栄町在住の方には不便さがある。また、地域には公共の施設が少なく、新町文化センターと栄町体育館が主なものとなる。包括支援センターが催しを行う場合も、地域の方が自主的に集う場合も、適切な場所がなく大きな課題となっている。

新町・栄町は市内でも高齢化率の高い地域であり、年々上がっている。(新町 25.3% 栄町 29.1% エリア 26.7%) また、高齢者世帯の1/4が単身世帯となっている。古くからの都営住宅(新町5 栄町7)・市営住宅(新町2 栄町1)が多く、各地域での高齢化も深刻になっている。高齢者の多い一部の自治会では、見守りをどのようにしたらよいか課題となっており模索している。

地域の老人クラブ・婦人会等の見守り活動が行われている。

新町・栄町は以前から介護保険事業所が少ない。地域内で長年連携を図ってきた居宅介護支援事業所が、今年度移転したこともあり、より市内遠方の事業所とも協力関係を築くことが重要となっている。

3 職員内訳（資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入）（平成26年12月1日現在）

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員			
	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	0.7	0.65	0.65	
資格	社会福祉士										
	保健師・看護師										
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー				主						
	介護福祉士										
	その他(資格があれば 記入)	福祉士	精神保健		士	歯科衛生					

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

・介護予防については、二次予防対象者のデータを前回データと比較し、各個人に応じた教室を案内するなど、データを活用した取組が見られる。また、文化センターでのイベントでのPRや機関誌のポスティング等、積極的に新規参加者の取り込みを行っている。

・地域との関係を構築する中で、保育園とのつながりが生まれ、保育園のスペースを利用した各種教室や講座の開催が実現するなど、活動の拡大につながっている。

・高齢者地域支援連絡会について、年間のテーマを設定し、ささえ隊ネット登録者にも参加を呼び掛けるなど、工夫して開催している。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

・相談支援に関する対応力向上のため、包括内での事例検討会やケースの振り返りを行う時間を確保する工夫をして欲しい。

・介護支援専門員からの社会資源情報を得るためにも、介護支援専門員同士のネットワークの構築を図って欲しい。

総合コメント

担当エリア内の居宅介護支援事業所が少なく、広範囲の事業所・介護支援専門員との関わりが必要となるが、個別には良好な関係が構築されているようである。今後は、事例検討会の開催等も検討しているとのことで、他包括との協働も含めて介護支援専門員のネットワーク化・システム化への取組を期待したい。

郵便局や金融機関からの情報提供が増加しており、見守りネットワークの周知の積み重ねによる効果が表れている。また、警察の協力を得ながら消費者被害防止の周知を行うなど、関係機関と連携した高齢者支援に取り組む姿勢が見られるので、関係機関や社会資源への働きかけを継続して欲しい。

毎朝のミーティングで進行中のケース報告や、会議・研修等の報告を行い情報共有に努めている点は評価できる。今後は、終結ケースの振り返りや事例検討も行き、相談対応力の一層の向上を図ることを期待したい。

地域包括支援センター緑苑

1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	緑町、浅間町、若松町(2~5丁目)		
人口	23,302人	高齢者人口	4,002人
自治会数	32団体	老人クラブ数	4団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	3	4	0	0	1	5	1	1	1	0	2	1	0	0

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

担当エリアには、1か所の都営住宅と高齢者専用住宅やすらぎ2ヶ所を抱えている。

緑町：八幡町から移り住んだ方や新しく住宅を購入した方が在住する。府中市の中心という事もあり所得の多い方も多い。主たる自治会は4自治会、老人会1団体、婦人会1団体である。高層マンションも増加し、人口も多くなる傾向にある。高齢者のみでなく、児童も増加傾向にあり、第2小学校は市内でも児童数が多く、浅間中学校においては青少年対策委員会も活発に活動している地域である。府中の森公園では自主的にシニアの方々が健康になるため個人・グループで様々な活動を行っている地区でもある。

浅間町：市内中心部から離れている事もあり、昔から自ら地域の課題を解決する為の行動力のある地域で、自治会・老人会・婦人会と各団体が協力のもと地域づくりに取り組んでいる。特に浅間山を抱える地域として山に関する事での人間関係が強く根付いている。また、各自治会が新しく建つ住宅については、必ず自治会へ入るように積極的に声を掛けていく等、地域のまとまりを常に考える地域である。浅間町の自治会を中心に防災組織も形成され年に数回の地域合同防災訓練も行われている。商工会については地域のお祭りとしてハロウィン祭りをを行い、高齢者から子供達まで幅広い世代を対象に活動を展開し、顔の見える関係作りを進めている。

若松町2丁目~5丁目：介護老人保健施設や有料老人ホームがある。昔からの地主や居住者が多い反面、賃貸アパートなどで生活する新しい住民も多く、関わりが難しい部分もみられるが自治会が中心になり熱心に地域づくりに向け活動している。

緑苑担当地区は、府中市内で最も高齢化率が低く、特に若松町については、40歳から64歳の人口が多いのが特徴であり、今後その方たちが高齢期を迎える事から介護予防事業や見守り事業の重要性とそれに伴う周知、事業の実施が重要となる。

3 職員内訳（資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入）（平成26年12月1日現在）

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	1	0.6	0.4	0.2	
資格	社会福祉士												
	保健師・看護師												
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー					主	主						
	介護福祉士												
	その他												

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

- ・介護予防について、講師を招いた体操教室や料理教室など工夫した講座を開催し、参加者から好評を得ている。また、講座のPRも自治会や老人会に協力を仰ぐなど地域との連携を考えながら実施している。
- ・担当して3年目の若松町地区について地域支援連絡会や家族介護者教室を開催し、包括のPRに努めるとともに、自治会の総会やイベントにも積極的に職員が参加し地域づくりを意識した活動を行っている。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

- ・自治会未加入の方や若い世代への包括の周知については市全体の課題ととらえているが、包括においても創意工夫のうえ取り組んでいただきたい。
- ・多忙な状況と推察するが会議の後は速やかに報告書の提出をお願いする。
- ・認知症サポーター養成講座についてはエリア内の小中学校への働きかけを引き続き行っていただき、児童・生徒向けに開催してほしい。

総合コメント

自治会総会や各地域の集まりに参加することにより「何かあれば包括に相談すればよい」という認識が地域に芽生え、結果、相談件数が増えている状況については、地域から評価されていると考えられ、大変良い結果である。今後も地域との関係づくりに取り組んでほしい。

相談業務では包括内でケースの情報共有や支援の検討を行い対応しており、専門職が専門分野を生かした支援体制が伺える。

包括全体に相談支援をはじめ、介護予防や地域づくりなどの業務の遂行に尽力している状況が伺えた。多忙極まる業務であるので、健康には十分留意し、業務に取り組んでほしい。

## 地域包括支援センターにしふ

### 1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	西府町、本宿町、日新町		
人口	16,538人	高齢者人口	3,141人
自治会数	12団体	老人クラブ数	5団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	5	1	1	2	3	5	1	2	0	1	4	0	0	1

### 2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

西府町地区と本宿町地区は、南北に走る鎌倉街道と東西に走る甲州街道により、5地区・6地区に生活圏域が分かれる。西府町と日新町の西部は、国立市との市境となる。かつては農業を営んでいた世帯が多く田畑が残っていたが、現在は宅地や事業所用地に変わっている。日新町地区に日本電気(NEC)の府中事業場があり、2万人規模の従業員が勤めている。

地域特性として、大国魂神社の「くらやみ祭り」や熊野神社の例大祭の氏子を軸とした地縁が強い。また、西府町・本宿町・日新町共に西府文化センター圏域のコミュニティ協議会に属し、文化センター祭りや高齢者向けの輪投げ、ペタンクなどの競技会を主催している。

現在、包括にしふ担当エリアの高齢化率は、19.0%(H26.10.1現在)である。担当エリア内の老人会は5つで、約450名の高齢者が入会して、誕生日会やグランドゴルフ・輪投げ等の活動を行っている。

公共交通機関は、市の南西を横切るJR南武線の「西府駅」がある。現在も、駅の北口周辺は開発途中の段階であり、平成27年秋にスーパーマーケットが建設予定。駅ロータリーを経由する公共バスの乗り入れが少ないため、移動用にマイカーを所有している世帯が多く、高齢の運転者も多い。

比較的元気で社交的な高齢者が多く見られるが、老人会や自治会とも疎遠で家に引きこもり気味の高齢者もいる。マンションやアパート経営をしている高齢者もいるが、国民年金のみで生活をしている世帯もあり、所得格差が大きいと思われる。

民間住宅を使って、NPOが高齢者および子育てサロンを開設している。

3 職員内訳(資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入)(平成26年12月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員			
	職員	職員	職員	職員	職員	職員		0.8	0.6		
資格	社会福祉士	○	○	○							
	保健師・看護師										
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー	主	○	主							
	介護福祉士	○		○							
	その他		福祉士 精神保健			ヘルパー 2級			2級	ヘルパー 1級	

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

・高齢者地域支援連絡会は、年間計画を立て積極的に取り組んだ結果、自治会の参加率が100%となり、民生委員をはじめとする地域のキーパーソンの参加者が増えるなど成果をあげている。  
 ・介護予防の啓発のため、老人会等の集会い積極的に参加しPRすることで、講座や教室への参加や自身での実践につながるなどの成果がみられている。  
 ・昨年未実施だったささえ隊養成講座を、中学校2校、小学校1校で実施。小学校では隣接の包括支援センターと協同実施するなど工夫が見られ、更に中学校1校では、来年度の継続実施やボランティア体験学習へと活動の広がりがみられている。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

・認知症高齢者の住みやすい街づくりへの更なる働きかけのために、ささえ隊のフォローアップ講座の実施が必要である。  
 ・高齢者虐待等の困難事例に関しては、行政や権利擁護センター等関係機関との速やかな連携による問題解決の方向性の検討と共に、職員間のメンタルヘルスへの対応が必要である。  
 ・ケアマネジャー支援においては、事業所および個々のケアマネジャーとの更なる信頼関係を構築し、タイムリーな相談支援をお願いしたい。

総合コメント

高齢者地域支援連絡会や様々な地域活動を通じて、包括支援センターに対する認知度が上がっている。これからも身近な高齢者の相談窓口として様々な高齢者の抱える課題を分析しながら、実践的効果的な包括支援センター機能を発揮してほしい。  
 二次予防事業においては、介護予防と包括相談の担当者がハイリスク高齢者の情報を共有するなど円滑な連携が図れている。更に、介護予防を運営するに当たり「効果を実感することが継続のポイント」と効果予測をしながら、積極的な教室運営に取り組んでおり、今後の効果に期待をしたい。  
 センター長を中心としたセンター内の事例検討会を引き続き開催し、困難事例に対する対人相談援助技術の向上を図ってほしい。  
 自治会、民生委員等地域住民を巻き込んだ認知症啓発事業等の働きかけにより、認知症になっても安心して住める街づくりへの取り組みをお願いしたい。

## 地域包括支援センターこれまさ

### 1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	是政・小柳町		
人口	22,136人	高齢者人口	4,464人
	22団体	老人クラブ数	10団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	2	2	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0

### 2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

地域全体の環境では田畑から新築の分譲やアパートの建築工事が目につくようになった。若年層の流入が進み担当区域内の小学校も生徒が増え教室不足の事態も出ている。一方、高齢者の社会資源は乏しく、介護保険関係の事業所数は横ばいである。

是政：新住民の増加が顕著で、新旧住民の二極化に拍車をかけている。自治会運営は旧来の住民が中心となるため形骸化している状況が見受けられ、包括支援センターの啓発活動も介入が難しい状況が続いている。回覧版への協力や地域支援連絡会への参加は実現しているものの、協力・連携に取り組むまでは至っていない。3年前よりスタートした交流サロン「コミュニティカフェこれまさ」は町会活動に熱意のある一部自治会の協力で月1回のサロンが実現した。しかし、多世代交流を目指したものの新住民や若い層の参加は進まず、誰でもが参加できる住民主体のサロンとしての継続が課題である。

小柳町：平均的に約40年前の分譲住宅が多く、住民自身の連帯意識も見られる。いわば、一緒に町づくりや子育てに取り組んだ歴史を共有している。自治会間の繋がりは今もあり、年1回、5つの町会が順番に担当し、防災や防犯など共通のテーマでイベントを計画、今年も200人近い住民が集い交流した。包括も地域の一員として毎年参加、地域啓発活動を展開している。他に年間を通して、地域づくり、見守り体制を目的としたサロン活動も行っている。老人会や自治会の協力のもと運営委員会を設け、月1回「こやなぎサロン」を開催しているが、住民意識が高く、将来的な支え合い組織を目標としている。

担当区域内には文化センターが1ヶ所あるが利便性から活用できる高齢者は限られている。地域包括の周知啓発活動および介護予防関連の活動は地域に点在する自治会館を借用することが多い。しかし、そのことが却って地域に出ていく活動となり、自治会、老人会、地域住民との連携に繋がっている。

3 職員内訳(資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入)(平成26年12月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤		
	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員	0.3		
資格	社会福祉士										
	保健師・看護師										
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー				主						
	介護福祉士										
	その他										

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

- ・行方不明者の対応について、予め徘徊のおそれがある方の写真を用意し、有事の際には素早く顔を確認できるよう備えている。
- ・介護予防活動から自主化した3グループについて、安定した運営が行われている。
- ・ささえ隊養成講座の受講者に、他のささえ隊養成講座へボランティアとして参加していただくなど、ささえ隊ネットの地域での活用に取り組んでいる。
- ・閉鎖的で介入が困難なエリアでは、自治会の集会等に参加することは難しいが、自治会長との関わり合いを心がけるなど、顔の見える関係づくりに努めている。
- ・サロン活動について、いずれにも民生委員が参加し、地域に定着させるための取り組みが行われており、広がりが生まれている。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

- ・二次予防事業対象者のデータの利用が、介護予防推進事業の案内にとどまっている現状から、地域ごとの傾向を把握し、教室開催のテーマに活かす等さらなる有効活用が求められる。
- ・介護予防事業等の開催場所を増やしていけるよう、今後も他地域住民の自治会館の利用に否定的な自治会・老人クラブにはたらきかけていく必要がある。
- ・ケアマネ同士のつながりについて、地域支援連絡会などの個別の交流にとどめず、全体のネットワーク化に努めていただきたい。

総合コメント

いずれの業務・事業についても、地域を主役と考え、いかに地域とともに取り組むかに尽力している。高齢者地域支援連絡会でのアンケート結果を年間計画に反映させ、サロン活動の発展につながっており、今後も継続していただきたい。

老人クラブと連携し、地域の気になる高齢者を見守る「こやなぎサロン」の活動のように、地域との顔の見える関係づくりを進めることで、地域との連携を強化し、行方不明者が発生した際に地域の住民に捜索・発見に協力していただけるなどの効果に表れている点は評価できる。

介入が難しいエリアでも引き続き顔の見える関係づくりに努め、各自治会・老人クラブに働きかけることにより、エリア全体の連携を強化し、安心して住み続けられる街づくりをすすめていただきたい。

地域包括支援センターみなみ町

1 基礎情報

(H26.10.1現在)

担当地区(町名)	南町		
人口	8,864人	高齢者人口	2,231人
自治会数	9団体	老人クラブ数	5団体

	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
介護保険事業者数 (延べ件数)	2	2	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1	1

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

府中市の南側に位置し、全人口は8,864人、内高齢者人口は2,231人。高齢化率は25.2%。  
 農家や一般の住宅と都営団地、集合住宅などがある。都営住宅の住人の殆どが高齢者で、高齢化率が高い。町内に医療機関は2件、地域の高齢者も通う一般内科、小児科である。介護保険サービス事業所は訪問介護、居宅支援事業所、通所サービスがある。

1年前には特別養護老人ホームも開設し、短期入所も稼働している。町内にバス通りはあるが、地域の内部をカバーしておらず、一部のみとなっている。このため、町内の住人の多くが徒歩や自転車で買い物等の活動を行い、支援が必要な住人は家族の支援や配達等を利用。町内には商店が殆ど無く、個人商店、コンビニエンスストアが数件ある程度で住人の多くは隣町や市中心部へ移動して買い物している。

自治会数は9団体。1,000世帯を超える大きな自治会から、通り一つの小さな自治会まで単位は様々である。対象世帯が多い自治会組織は班を作り、それぞれで活動している。小規模自治会では、見守りが充実し平日のラジオ体操などで高齢者の見守りを行っている。集合住宅にも自治会は存在するが、役員は交代制の仕組みになっている。集合住宅全体として高齢者が多く、交代する役員の候補者がいないことも問題となっている。

3 職員内訳(資格:対象に 非常勤は、常勤換算で何人分かを記入)(平成26年12月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員			
	職員	職員	職員	職員	職員	職員	職員				
資格	社会福祉士										
	保健師・看護師										
	ケアマネジャー 主任ケアマネジャー			主							
	介護福祉士										
	その他										

4 ヒアリング結果

改善された点 よく取り組んでいる点

- ・高齢者だけでなく、高齢者を支える若い世代への包括の取り組みや活動の周知を行う意向がある。地域による高齢者支援の形作りが期待される。
- ・月1回、包括かたまちとチームカンファレンスを行い、関わりの均一化、共有化を図っている。また、その際ケースを協議することもあり、多くの視点に立った話し合いができています。
- ・関わりを持ったケースとの持続的な関係性が保てており、ケースやその家族から、包括の活動や介護予防事業等の周知活動について情報発信を行い、新規の被支援者の発掘が行えている。
- ・個のニーズについてはほぼ把握しており、それに対応した支援が提供できている。
- ・ケース対応時に医療機関で周知活動をしそれを積み重ねにより、包括の活動や役割について把握している医療機関との連携が深まっている。

改善が必要な点 取り組みが必要な点

- ・前年度更なる取り組みが必要だった点(ネットワーク構築やケースの振り返り)に関し十分な改善がされていない面があるので、今後も取組を継続することが必要。
- ・個のニーズだけでなく、それを地域の課題として分析し捉える取組が必要。
- ・介護予防講座の場所探しや新規グループの作成の課題は掲げているので、それに対する積極的な取り組みが望まれる。

総合コメント

高齢化が進み商店や施設が少ないという地域性がある中、地域との連携を強く持ち、問題点に取り組む姿勢がある。今後、かわらばんや広報を利用し、更なるネットワークの網目を広げられると思われる。

ネットワーク構築には課題が散見されるが前向きに検討している。一度関わりを持ったケースとの関係性や医療機関との連携はとれており、新たな情報発信の場として活用できると期待できる。

社会資源やケアプランの作成等、情報共有や支援に概ね満足がいており、包括の実績に関して高い評価をしているところが見受けられ、包括内での協力体制がとれている。

何をすべきかの必要要件や課題の抽出は行えているため、見えている改善点を徹底していけば地域の結びつきが高い、支えあう地域になる素因が多く、今度の成果に期待したい。